

GWI 総会「教育による平和」：国連及び国連専門機関への GWI 代表らの報告

GWI はジュネーヴ、ニューヨーク、パリ、ウィーンの主要な 4 つの国連センターに代表をおく。私たちの国連代表たちは、国連の会合への出席や世界の政策立案者たちが討論した議題のうち任務に関する多様な問題について報告を返すことにより GWI の使命を果たしている。GWI の総会において国連代表たちは過去 3 年間の活動の報告をするように招かれた。

ジュネーヴで代表を務める GWI 執行理事 Stacy Dry Lara は、3月、6月、9月毎に開催される人権理事会 (HRC) において、GWI 会員を代表してその任務を推進している。GWI はこの 3 年間で HRC に陳述書を 9 回提出し、10 回の口頭陳述をした。取り上げられた問題には、教育の障害、子どもの寡婦、早期の強制された児童婚、先住民の権利、平和の構築、収賄汚職、高齢者の学習方法、社会的包摂 (共生)、持続可能な開発目標 (SDG s) のための高等教育の責任体制などがある。GWI はごく最近、女性と汚職の問題についてパネルディスカッションを開催した。さらにジュネーヴにおいて、GWI は女性差別撤廃委員会 (CEDAW) の会議に参加、さらにその 3 年間に人権理事会の普遍的・定期的レビューの対象となった GWI 会員 (NFA) 43 ヶ国に関する報告を提供した。ジュネーヴでは GWI は積極的に NGO 女性の地位委員会 (NGO CSW) や人権委員会に参加している。

ニューヨークを代表して、Maryella Hannum は仲間の国連代表 Sophie Turner Zaretsky 博士と Maureen Byrne 博士と共に行っている、国連メカニズムと国連機関を通じて GWI の任務遂行のために行っている仕事を強調した。手短かに言えば、チームは国連経済社会理事会 (ECOSOC), UN-Women, CEDAW, 国連児童基金 (UNICEF), やハイレベル政治フォーラムで活動している。彼女たちはチームとして、2030 アジェンダに関連する国連活動に対し幅広い参加を容易にするために主なチャンネルとして公認された、社会の複数の部門を担う主たるグループに積極的に参加し、GWI の任務を推進している。各代表はニューヨークの NGOCSW において活動的な役割を果たしている。Maryella は Logistics Committee & Youth Engagement の共同議長、Sophie は Handbook Committee に所属し、Maureen は Zero Draft Committee で意見を述べ、GWI の声を報告文書に組み入れている。

ウィーン代表の Elisabeth Francis は、ウィーンでの国連機関の注目が特に組織犯罪、持続可能な発展、汚職の軽減問題にあると強調した。彼女は GWI を代表し本会議に出席し、委員会に参加している。それは通年の麻薬委員会、犯罪防止刑事司法委員会への出席、そして国連軍縮部と協力する軍縮・不拡散教育などだ。また Elisabeth はウィーンにおける平和や NGO CSW に関する複数の委員会、高齢化および持続的発展委員会とも関係している。彼女は軍備不拡散への協力、そして和平交渉における女性の参加を力説した。GWI が期待されたもうひとつの分野はサイバースペースにおける暴力を若者に意識させることである。

GWI の事務局員 Clémence Mathiaud が発表した、パリの GWI 国連代表 Dominique Ciavatti と Eliane Didier による活動の報告書では、ジェンダー平等、科学、AI、M-ラーニング、包摂的 (共生のための) 教育に関するユネスコの会議、ワークショップ、セミナーやフォーラムが取り上げられた。彼女ら国連代表チームは、2020年9月に行われる経済および、女兒のためのより良い未来と権利の創造に関する会議に出席予定である。これは他の地域の国連代表と会う機会にもなるだろう。

GWI 第42回人権理事会に女性の不平等な貿易機会への対応を求める陳述書提出

GWI は第42回人権理事会（HRC4）を機に、陳述書により女性たちの財政状態を改善する手段の1つとして貿易への女性の参加の重要性に対する意識の向上を図っている。そうすることで、GWI は「女性の経済エンパワメントにおけるジェンダーと貿易に関する世界貿易機関宣言（WTOD）」、「国連貿易開発会議（UNCTAD）貿易とジェンダー・ツールボックス」及び「国際貿易センター（ICT）シー・トレーズ・プログラム」への支持を宣言する。54か国にまたがる GWI 会員たちは貿易によって女性の地位を向上させるために、これらの先導的な行為や組織と共に働く用意があり、いかに女性達が積極的に貿易協定を地域的、国際的に完全なものにするかを示す用意がある。

GWI は、価値連鎖や貿易の機会における女性の不平等に取り組むことは複雑だと認めるが、貿易とジェンダーが雇用創出と経済成長にとって不可欠な2つであると強調したい。加えて貿易による女性の経済的エンパワメントを改善することは広範囲な戦略的なパートナーネットワークに依存すると GWI は認識している。このために GWI は加盟各国と国連の機関に国際 NGO と協力することを要請する。これらの組織は広大な国際化されたネットワーク、および地域の微妙な差異を理解し、地域ごとにジェンダーに配慮した貿易協力戦略が作れる地方のパートナーへのアクセスを提供できる。それによって、トレード・マーケットに入る女性の自信と将来の成功の見込みが増加する。GWI による HRC42 陳述書の全文は[ここ](#)

第42回人権理事会（HRC42）の主要課題：水と下水設備に対する人権

適切な WaSH（水、下水設備と衛生管理）を利用できる状態は、世界中で 25 億の人々が手に入れない人権である。3 人の内 1 人は安全な飲み水が手に入らない。女性や少女を含むすべての人が WaSH に対する基本的な権利を満たせることを確実なものにする努力の強化、かくて「すべての人々に水と下水設備の利用可能性と持続的経営を保証する」と宣言する持続可能な開発目標（SDG6）を達成することは、HRC42 の第 1 週目の主要なテーマの一つである。

会議の初日に安全な飲み水と下水設備に対する人権に関する特別報告者（SR）Leo Heller は「家庭から先の生活領域、特に公共空間における水と下水設備に対する人権」がテーマの報告書を理事会に提出した。

その報告書提出の翌日、SR によって組織されたサイドイベントがあった。その中で GWI は世界中の女性と子供たちの教育にとって無用な障害である生理衛生不安（MHI）に SR の注意を引く機会をえた。GWI はブラジル出身の Juliana Muller と言葉を交わす機会があった。彼女は 2018 年にわずか 17 歳で第 2 回 Human Rights Youth Challenge（HRYC）エッセイコンテストで優勝した。Heller が組織化したこの 2 度目の HRYC は WaSH に対する人権の意識を高めることと家庭を越えた生活領域において WaSH を得られない人々への注意を引くことに目標を定めた。Juliana Muller の

すばらしいビデオ “RIGHTLESS” では、あなたは取り残されることの意味を知る若い女の子の立場に身をおき、ブラジルの田舎を 1 マイル歩くことで、身を以てそれを理解するだろう。おめでとう Juliana!

9 月 11 日の夕方、ジュネーヴの国連事務局とドイツ政府代表部によって準備された飲み水と下水設備に対する人権に関する美術展の初日に参加することで、GWI は飲み水と下水設備に対する権利を支援し続けていることを示した。展覧会はドイツ大使 Michael Ungern-Sternberg, 飲み水と下水設備に対する人権 SR Leo Heller そしてジュネーヴ国連事務局長 Tatiana Valovaya の出席のもとで開催された。